

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>プロアマ・コマンダー ベータ</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.500</b>	△RG <b>0.054</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：コマンダー ベータ**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **5** インチ

番

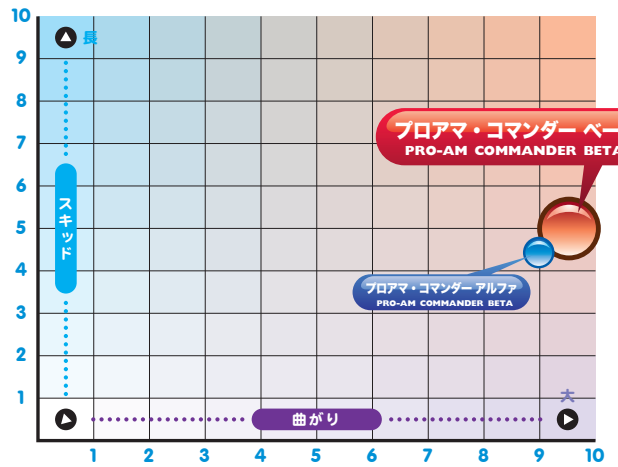
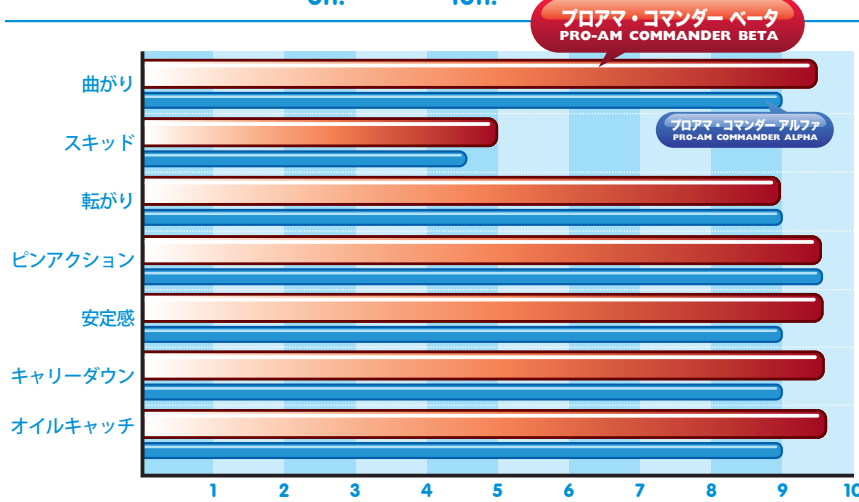
**比較対照ボール：コマンダー アルファ**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **5** インチ

番



### ボールの評価

Pro-amモデルで初となるHigh-パフォーマンスボールのCommander αは、ミディアムヘビー以上のコンディションでプロ・アマ問わず多くのユーザーに受け入れられ、完売まで幾日もありませんでした。特にジャパンカップの覇者加藤佑哉プロは初代Commander αを気に入っており、レイアウトを変えて二つ持ち、オイルの多いコンディションで使い分けています。

今回ご紹介するCommander第二弾のCommander βは、カバーストックをSelect Premim Hybrid Reactiveから Pearl Reactiveへと変更しました。Pearl素材に変更することで、キャッチのイメージは変わらずに、バックエンドの動きをプラスαすることができ、バックエンドの動きが不足と感じたユーザーに対し、反応の良い満足のいくリアクションを提供できるようになりました。実際にαとβを比較投球してみると、スキッド中のオイルに対してのキャッチのイメージは変わらないのですが、ミッドエリアから先での動きに運動差を感じます。αの場合はきっちり軸移動しながら「寄る」イメージのリアクション。βはやや加速感を得ながら柔らかく切れ込むリアクションのように感じました。ですのでオイルの中を「やや直進的なラインのα」とオイルからやや外に向けての「出し戻しのβ」と描けるラインが異なります。私にはαでは出し戻しのラインを描こうとするとキャッチの強さに軸の動きが負けて不足と感じてしまいますが、そのラインをβであれば出し戻すことが可能になります。

今回Hybridカバーから Pearlカバーへの変更でキャッチ力が弱まったというのではなく、「如何にバックエンドまでパワーを温存させるか」に着目したこのCommander β。まだまだPro-amモデルの時代は続くでしょう。

### 特記事項

**今回のCommander βはキャッチ力の強さそのままに、幅を取り、出し戻し易いラインを描けるボールに仕上げました。Commander αのイメージで先での動きを求めるのであれば、このボールは見逃せません。**